

令和3年 12月 20日、長野県地域防災会議報告用

1 災害ボランティアセンター(以下、災害VC)の活動の概況

	災害VC設置等社協	活動者数	活動件数	活動日数
8月	諏訪市、下諏訪町、辰野町、木曾町	631人	124件	のべ 14日間
9月	茅野市	520人	77件	のべ 20日間

- 諏訪市、下諏訪町、木曾町では、地元地社協が新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、市内在住・在勤者を中心にボランティアを募集。浸水被害にあった家屋の家具搬出や清掃を「短期集中型」で支援。
- 辰野町、茅野市では、土石流災害等の被害に対応して、一般ボランティアと重機ボランティア団体が協働して家屋や敷地内の普及支援に効果をあげた。
- 県社協は、のべ65名の職員を派遣して、被災地災害VCを支援した。特に、重機系ボランティア団体と地元社協の橋渡しの役割を担った。
- 長野県大規模災害ボランティア応援助成(長野県補助事業)を初めて適用し、ボランティア団体の旅費、軽トラ・小型重機賃料等(8団体、808,865円)を助成した。

2 支援活動の特徴

諏訪市災害支えあいボランティアセンター

・重点活動期間 8月18日～8月22日、ボランティア数197人、ニーズ対応66件



- 諏訪市社協を中心に、諏訪圏青年会議所、諏訪湖ライオンズクラブ、諏訪防災ネットワーク、諏訪市ボランティアセンター運営委員等による協働型の災害ボランティアセンター運営を実施。高齢化が進んだ商店街の片付けニーズをきめ細かく把握し、ボランティア活動とマッチングした。
- 諏訪圏青年会議所は、地域の社協と災害時応援協定を締結しており、災害VCの運営を支援するとともに、軽トラ隊を組織して、災害ゴミの運び出しに大活躍した。
- 諏訪市社協では、8月末で、災害ボランティアセンターを縮小しつつ、引き続き被災した高齢の商店主等の生活支援ニーズの把握に努めるとともに、支えあいボランティア登録制度を設けて、継続的な支援に取り組んでいる。

茅野市災害ボランティアセンター

・ 重点活動期間 9月7日～9月26日、ボランティア数522人、ニーズ対応77件)



- 茅野市宮川地区では、土石流災害により地区内に大きな被害が広がった。住宅や敷地内に大量に流れ込んだ土砂の撤去は人力だけでは困難であり、長野県に所縁のある技術系ボランティア団体に支援を依頼し、小型重機とスコップのボランティアが連携、民家の敷地等の片付けを支援した。
- 県社協では、重機系ボランティア団体のリーダーと地元社協職員の橋渡しに努めた。
- 茅野市災害CVでは、台風第 19 号の際長野市北部センターで支援経験を積んだ若手職員がセンター運営の中核として活躍した。

3 災害VCと重機系ボランティア団体と連携

(1) 重機系ボランティア団体とは

自然災害が多発するなかで、災害系 NPO・ボランティア団体において、重機を活用した機動性の高い支援活動が数多く見られるようになっており、各地の被災現場で評価が高まっている。

説明	参画団体
青年会議所会員など、生業として重機を扱っている業者等のボランティア	諏訪圏青年会議所(会員のうち、土建業、造園業等)
重機を活用した災害支援活動を行っている非営利団体	DRT-JAPAN(県内での災害支援実績多数) ヒューマンシールド神戸(代表者:信濃町) (一社)日本笑顔プロジェクト(本部:小布施町)

(2) 連携内容

- ① 県社協災害福祉支援本部から各団体へ支援要請。
→ 被災地社協を含め、SNS(メッセージ)で逐次、情報を共有。
- ② 被災地災害VCとの連携促進
→ 市町村社協職員とプロボノ集団の関係づくりを調整。
→ 被災住民への重機系ボランティア活動の説明、ニーズマッチング。
- ③ 長野県大規模災害ボランティア活動応援助成
(旅費、小型重機使用料)を初適用



連携SNS(イメージ)

(3) 課題

台風第 19 号災害で顔が近づいていたから連携できた。
→ 今後に向けて協定締結(12/23日予定)

今後、飛込重機ボラが増えることを想定。
→コーディネイト機能の強化のため、定期的な研修を計画

災害救助法等に基づく市町村の復旧支援事業との境界問題
→どこまでをボランティアに頼るのか議論を